

松江市小中一貫教育だより NO.12

小中一貫教育推進係 文責：安部

学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール) part2

「松江市小中一貫教育だより NO.11」では、「コミュニティ・スクールの概要」「先生方のまずすべきことは」という内容をお伝えしましたが、今回は「実際の協議会の運用の仕方」について紹介します。主に校長先生方に関係する部分になりますが、今後の協議会運営の一助にいただけたらと思います。

各校が活用・保管している「松江市学校運営協議会(コミュニティ・スクール)運営マニュアル」を取り上げると、下記のような内容が明記されているかと思います。



松江市では、原則年3回の協議会の実施をお願いしています。

1回目は、

- ①開会 (進行:教頭)
 - ・任命書 交付 …教育長メッセージ
 - ・学校長 挨拶
 - ・自己紹介
- ②会長・副会長選出…1名ずつ
- ③議事
 - ・令和4年度 〇〇学校 学校運営(案)について
 - ・意見交換
- ④閉会
 - ・会長 挨拶

というような流れで実施していただいたと思います。中には、子どもたちや学校の様子を実感してもらうために授業参観を取り入れた学校もありました。

③の意見交換の場面では、例えば、

- ・教職員の働き方をどうすればいいか。
- ・地域の小学校協力隊を継続し、一緒になって課題解決に向けて進んでいこう。
- ・生徒との意見交換の場を増やしたい。
- ・先生方のタブレットの準備がたいへんではないか。専門家がおられるといい。
- ・親楽プログラムなどをおしていろいろな問題の解決につなげていこう。

などと、意見交換の中で出た学校の現状から「どうすれば学校側の力になれるか」を考える時間になったところもあったようです。

2回目は「熟議」の場面として設定しています。

熟議とは、多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決をめざす対話のことです。そのポイントは文部科学省 HP によると、

熟議のポイント

1. 多くの当事者(保護者、教員、地域住民等)が集まって、
2. 課題について学習・熟慮し、議論をすることにより、
3. 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
4. それぞれの役割に応じた解決策が洗練され、
5. 施策が決定されたり、個々人が納得して自分の役割を果たすようになったりすることが期待される。

と明記されています。ようするに、子どもを中心におき、自分にできること、みんなができること、すぐにできること、時間のかかることなどを、みんなでしっかり考え、話し合う時間のことです。

では、何についてしっかり考え、話し合うかですが、何をテーマにするかが非常に重要になってきます。しかし、難しく考えず、学校・家庭・地域の身近な課題、問題、困っていることをテーマにしてみるといいと思います。

熟議のテーマ例

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| ◇学校・家庭・地域のそれぞれの課題 | ◇めざす子どもたちの姿(どう育ててほしいのか) |
| ◇学校と地域が一緒にできることは | ◇教育に地域の力をどう活かしていくか |
| ◇下校時の安全をどう確保するか | ◇学力を向上させるには |
| ◇不登校の児童生徒に寄り添うために | ◇いじめを防ぐには |
| ◇教職員の働き方改革について | ◇部活動について |
| ◇コロナ禍における学校行事・地域行事について | ◇学校評価の項目について |
| ◇新型コロナウイルス感染症対策について | ◇熟議したいテーマを熟議する |
| ◇これまでの地域学校協働活動 | |
| (ふるさと教育やキャリア教育)の整理・精選 | |

実際、これまで熟議を行った学校を紹介しますと、次のようなテーマを学校側が設定して会を進めていました。

- ・ふるさと〇〇を大切に思う子どもを育てるために、学校・家庭・地域ができることは？
 - ・学校・家庭・地域の持続可能な三つ巴の教育を進めるには？
 - ・〇〇で育てたい子ども像とは？
 - ・〇〇の子どもたちの「弱み(今たりないこと)」、「強み(今満足できること)」、「希望(さらに期待したいこと)」は？
 - ・15歳までに身に付けさせたい「生活習慣」は？～学校・家庭・地域でできることは？こんな子に育てたい！～
- ※〇〇内は地域名(学校名)

中には、「もっと大人数で話し合いたい」ということで学園教育推進会議と抱き合わせて行っている所もありました。熟議の方法も、KJ法やカードワーク(※方法については後に紹介)などを利用し、委員の方が意見を出しやすく、より互いが係り合いながら話し合えるような工夫をしていました(※会の様子についての写真は後に掲載)。

この熟議をもとに委員による「意思決定」ができれば、次に求められることは「具体的に動く」ことです。せっかくの熟議の内容を運営協議会の中だけに留めておくのは実にもったいないことです。どうぞ、校長先生は保護者や地域に運営協議会の仕組みや内容等を発信してください。そして、学校や担任、委員それぞれの立場でできることを考え、実践してもいいでしょうし、地域学校コーディネーターを活用してボランティアを募り、ボランティアの輪を広げながら「めざすもの」や「課題の解決」に向かっていくのもいいと思います。

3回目「評価及び次年度に向けての協議」の場面です。

ここでは、「学校運営協議会の年間の流れ」として3回の会を示していますが、4回や5回の実施でも構いませんし、必ずしも「1年完結」でなくても構いません。学校、地域の実態に合わせて動き、2ヶ年計画でも可です。各校で工夫をしながら、子どもたちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」を進めていって欲しいと思います。

最後に、本制度を進めていくにあたっては、教職員に対して仕組みの周知はもちろんのこと、「学校へ保護者や地域の人が入ることの意義の再確認」も必要になってきます。この制度を有効活用しながら、子どもたちの豊かな成長を支え、地域とともにある学校づくりがしっかりと進んでいけばと思います。松江市教育委員会としましても、引き続き情報の発信や、全委員及び管理職を対象にした研修会等の実施等をしてしながら、学校を支えてまいります。

【熟議にしていくなためのワーク例】 おすすめの順に並べています。

ラベルワーク	個人が持っている様々な知識や経験、アイデア等をラベル(付箋)に書き込み、それらを分類、整理したり、構造的にまとめたりする方法。 ●ラベル(付箋)は誰が書いたか明確でないため、自由な発想や、本音の意見を引き出すことも期待できる。 ●グループでの話し合いの結果を視覚的に整理することができる。成果物が残るため、広報しやすい。
カードワーク	テーマについての考えや思いをカードに書き込み、それらに優先順位を付けてその選択理由について話し合う中で、大切にしたい考えや思いを整理する方法。 情報をカードに書くことで、参加者の全ての意見を活用できる。 ●カードは誰が書いたか明確でないため、自由な発想や、本音の意見を引き出すことも期待できる。 ●カードを選ぶ過程で思考を繰り返しているため、意見が出しやすく話し合いが盛り上がりやすい。
ランキング	物事の優先順位を決定する際に用いる文字通り「順位付け」の方法。グループでの意思決定や合意形成には時間がかかるが、市民レベルで政策を考える場合など汎用性に優れている。 ●例えば…校内の教職員アンケートやラベルワーク等で出てきた課題を、委員の方々に順位付けをしていただき、その理由などを出し合い、討論を進めていく。
フリップディスカッション	フリップとは、テレビ放送などで、図解によって視聴者の理解を助けるために用いる大型のカードを指す。学習者の考えや思いを簡単な言葉や絵でフリップに表したものを用い、ディスカッション(討論)を進めていく方法。 ●応用として…カードワークで最後に残った一枚をフリップに書き出し、討論を進めていくことができる。
ワールド・カフェ	“カフェ”にいるようなリラックスした雰囲気の中、参加者が少人数に分かれたテーブルで自由に対話を行う。時々、他のテーブルとメンバーをシャッフルしながら話し合いを発展させていくことで相互理解を深め、多くの人の知識の蓄積をしていく方法。 ●学園教育推進会議など委員の数が多いときに有効な方法だが、進め方を説明し理解していただくことに時間がかかる。
エピソード	学習の内容や参加者の置かれている状況に応じたエピソードを選び、課題や対応策を考える方法。 ●客観的な立場で、感情のままに自由に表現することができるだけでなく、当事者になりきって考えたり感じたりすることで、共感的な理解を図ることも期待できる。

【熟議の実際の様子】

